

六甲オルゴールミュージアム

アンティーク・オルゴールで聴く映画音楽

～懐かしの名画から最新映画作品まで～

2018年1月12日(金)～3月14日(水)

阪神電気鉄道株式会社(本社:大阪市 社長:秦雅夫)のグループ会社である六甲山観光株式会社(本社:神戸市 社長:宮西幸治)が、六甲山上で運営する「六甲オルゴールミュージアム」(博物館相当施設)では、2018年1月12日(金)から3月14日(水)まで「映画音楽特集～懐かしの名画からスタジオジブリ、ディズニー作品まで～」を開催します。懐かしの映画作品から、スタジオジブリやディズニーの映画、更には「美女と野獣」、「ハリー・ポッター」などの最新の映画の曲まで幅広い曲を、アンティーク・オルゴールなどの自動演奏楽器で演奏します。

■特集コンサート「映画音楽特集～懐かしの名画からスタジオジブリ、ディズニー作品まで～」

懐かしの名画の曲だけではなく、現代の私たちになじみ深い映画音楽を歴史的価値の高い19世紀後半から20世紀初頭に欧米で作られたアンティーク・オルゴールなどの自動演奏楽器で聴くことができます。

アンティーク・オルゴールなどの自動演奏楽器を動かし続けることは、過去の人々の残した楽器を知って頂き、保存していくうえでも大変重要です。今回の特集コンサートでは、関連イベントとして「無声映画の効果音オペレーター体験」も開催し、無声映画時代の人々へ思いを馳せることができます。

【開催日時】

2018年1月12日(金)～2018年3月14日(水)
(期間中 木曜休館日)

【特集コンサート時間】

10:30～16:30の間、毎時30分から各回約15分間

※毎時00分から別プログラムのコンサートも実施しています。

※入館料のみでご参加頂けます。

【演奏曲目例】

- ・「愛のロマンス」(映画『禁じられた遊び』から)
- ・「ひまわり」(映画『ひまわり』から)
- ・「瞳をとじて」(映画『世界の中心で愛を叫ぶ』から)
- ・「美女と野獣」(映画『美女と野獣』から)
- ・「ビビデ・バビデ・ブー」(映画『シンデレラ』から)
- ・「風の通り道」(映画『となりのトトロ』から)
- ・「ヘドウィグのテーマ」(映画『ハリー・ポッター』シリーズから)他

【演奏楽器】

- ・ポリフォン 54 型“ミカド”/ドイツ/1900年頃
- ・ワーリッツァー・スタイル・“O”フォトプレーヤー/アメリカ/1920年
- ・ハーヴェスト/オランダ/1991年
- ・ウエーバー・デュオ・アート・9フィート・グランドピアノ/アメリカ/1920年代



【楽器名】 ポリフォン 54 型“ミカド”
【種類】 ディスク・オルゴール
【制作年】 1900年頃
【制作国】 ドイツ
【大きさ】 226. OH×96. OW×61. OD(cm)

<リリースに関するお問い合わせ先>

六甲オルゴールミュージアム

【TEL】 078-891-1284 【FAX】 078-891-0111

<営業概要>

【入館料】 大人(中学生以上)1,030円、
小人(4歳～小学生)510円

【営業時間】 10:00～17:00(16:20受付終了)

【休館日】 11/30～3/15の木曜日休館、12/31、1/1

【所在地】 神戸市灘区六甲山町北六甲4512-145

■最新曲をアンティーク・オルゴールで演奏

当館で制作した世界で一枚のディスクも使用し、現代の映画音楽をアンティーク・オルゴールで演奏します。当館では、2005年にオリジナルディスクの制作を開始しました。編曲作業からディスクのプレスまで一貫して館内で行っています。これにより、現代の楽曲をアンティーク・オルゴールで演奏できるようになり、現代の映画音楽も19世紀の音色で聴く事が可能になりました。今後もこうした技術を活用し、様々な企画に取り組みます。

※オルゴールの演奏をプログラムした金属の円盤。交換することで異なる曲が演奏できます。

関連イベント

「無声映画の効果音オペレーター体験」

フォトプレーヤーで効果音をつける体験ができます。

- [実施日] 2018年2月10日～3月11日の土日祝日
- [体験時間] ①11:30～②14:30～の特集コンサート時間内
- [参加人数] 各回4名様まで(先着順)
- [料金] 無料(入館料のみ)
- [参加方法] 当日、開催時間の30分前までに、当館スタッフに申し込みの上参加。

バスター・キートン主演の無声映画等に合わせ、ボタンやペダルを操作して、場面に合った効果音を自由につけます。

タイミングと音のセレクトが“カギ”です！



<ワーリッツァー・スタイル“O”フォトプレーヤー>

アメリカ/1920年

無声映画にBGMと効果音をつけるために作られた電気モーターを動力としたアメリカのワーリッツァー社の自動演奏ピアノです。ピアノやオルガン、ドラム、シンバルなどの楽器を自動演奏するほか、映画の場面に合わせて、手動で鳥の鳴き声や汽笛などの効果音をつけることができます。さらに複数の効果音を組み合わせることによって、複雑な情景にも対応可能です。当館所蔵のフォトプレーヤーは、無声映画の全盛期であった1920年代に、シアトルの映画館で使用されていたものです。



ワーリッツァー・スタイル“O”フォトプレーヤー